

水環境・生物 (1-F-16-4~1-F-17-4)

本セッションでは水環境修復における自然システムに関して種々の機能に関する発表が行われた。ヨシ枯死茎の酸素輸送量に関する検討では、冬場を想定した物理的な酸素供給量に関する基礎的な検討がなされた。現段階では基礎的な検討であるが、今後、知見を集積することによって、人工的な湿地処理施設設計に対する有用な知見になるものと期待される。続いてアマモに関する検討が2題紹介されたが、いずれもアマモの生育環境に関する基礎的な知見が得られており興味深い内容だった。セッションの最後に貝の話題が2題続いた。その中で「マルタニシの生存戦略が浮遊藻類現存量に与える影響」は非常に野心的な検討であった。内容的には初歩的であり、今後更なる検討は必要なものの切り口に優れた検討と見受けられ、今後の発展を期待したい。今回の学会では自然システムに関する発表が多く見られた。それぞれ様々な視点からの検討が行われていたが、全体として細部に関する検討が多く、「どのような場面を想定して、どのような効果を期待するのか」といった前提との関係が見えにくい印象を受けた。また、過去の既往研究との関係が今一步はっきりしない発表も存在した。したがって、今後は「何のために」、「何が不明で」、「何を明らかにするのか」といった大前提に立ち返った見直しも重要ではないかと感じられた。

(国立環境研究所 水落 元之)